

奈良市佐保台地区 地域自治協議会計画書

令和2年12月15日

目次

1. 計画の目的	1
2. 計画の期間	1
3. 地域自治協議会区域の概要	2
4. 地域の組織・団体	3~5
5. 佐保台地域の現状と課題	6~9
6. 地域の将来像・基本方針	10~11
7. 組織図	12

1. 計画の目的

近年、少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化による市民の価値観の変化などにより、地域住民の地域コミュニティへの帰属意識が希薄となり、これからの地域づくりや、その担い手不足が懸念され、佐保台地区も例外ではなくなりつつあるのが現状である。

しかし、災害対応、治安、福祉、高齢化のケア、環境問題など、我々の地域社会への様々のニーズは高まり続けている。

従来は、個人や家庭が解決できないことは、まず地域が取り組み、地域が解決できないことは行政が取り組むという補完性の原理が作用していたが、行政の対応力・公共性機能の低下により、そうした考え方も限界に近付いている。

これらの状況を踏まえ、従来の行政との相互依存関係から脱却、地域・行政双方がイコールパートナーとして協働。われわれ、住民の知恵を深め、地域の力をフルに生かしながら地域の課題を解決するための住民の合意、共通の理解のもとで、住民の協力を得る新たな仕組みづくりをつくろうというのが本旨である。

2. 計画の期間

・計画の対象とする期間

- | | |
|---------------|--------------|
| (1) 長期的な対象の計画 | 10年間を目途とする |
| (2) 中期的な対象の計画 | 3年～5年間を目途とする |
| (3) 短期的な対象の計画 | 3年間を目途とする |

3. 地域自治協議会区域の概要

佐保台地区地域自治協議会は、奈良市佐保台小学校区を活動区域とし、佐保台1丁目の開発により、人口は3,063人(2019年)、世帯数は1,383世帯(2019年)、短期的には若干の増加傾向にあるものの、長期的には少子高齢化傾向にある。

地域環境は1969年に三井不動産が開発した住宅専用地域で落ち着いた街並みを形成している。地域内に8つの公園があり緑が多く、また地形上自然災害発生度が低いと思われる地区である。

公共交通機関はJR大和路線・奈良交通のバスの便がある。リニア中央新幹線中間駅候補地でもある。

幼稚園が平成22年に閉鎖された為、未就学児は通園バスで左京こども園に通園している。商業施設としては、コンビニエンスストアが1軒あり、それ以外は小規模の美容院、ペットショップ、中古車販売店がある。

福祉関係では、佐保の里、ファミリーモア八重桜デイサービスセンターがある。そして、郵便局が平城山駅前が存在する。

人にやさしい活力のある学び・美しさ・モラルの高い個性的なまちづくりの推進を目指している。

地域の将来の為に、安全・安心の環境の維持、世代や年齢を超えたつながりの強化が課題となっている。

4. 地域の組織・団体

(1) 佐保台地区自治連合会

単位自治会相互の親睦を深め、地域社会の暮らしを守り、生活環境を良くし、明るい文化的な生活を築くために、単位自治会と協働、単位自治会共通の課題解決に努め、住民福祉の増進を図る。

① 佐保台地区自治連合会活動

- ・ 定例役員会及び総会
- ・ ふる里まちづくり実行委員会
- ・ 「自治連合会だより」の発行
- ・ 「向こう三軒両隣」の推進

② 開催行事

- ・ クリーンデー（年2回）
- ・ 佐保台夏祭り
- ・ 総合文化祭
- ・ とんど焼き
- ・ 防災避難訓練

③ 奈良市自治連合会関係

- ・ 定例会等出席
- ・ 地域自治協議会検討委員会出席
- ・ 北部ブロック連絡協議会出席

④ 平城東中学校区学校運営協議会（校区CS会議）出席

(2) 佐保台地区自主防災防犯協議会

「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し下記活動を行っている。

- ① 子どもの登下校見守り・夜間の防犯パトロールの実施
- ② 「向こう三軒両隣」推進
- ③ 「防災防犯だより」発行
- ④ 「歳末警戒パトロール」を実施
- ⑤ 災害に備え備蓄品を防災倉庫に保管
- ⑥ 避難所運営計画の策定・「防災避難訓練」の実施

(3) 佐保台地区社会福祉協議会

当地域の高齢者の方々の拠り所・日々のサポートや交流の場を提供する事を目指している。

① 定例行事

- ・「ふれあいサロンサークル」開催
- ・「茶話会サークル」開催

② 当地区で開催される行事等への参画

- ・夏祭り
- ・とんど焼き
- ・ラジオ体操
- ・「放課後子ども教室」への支援等

(4) 佐保台地区民生・児童委員協議会

住民の誰もが安心して暮らせる地域づくりをすすめている。

- ① 独居高齢者の日々の見守りや相談活動に取り組み、必要な支援につなぐ（毎月の訪問、年2回のイベント開催）
- ② 虐待や犯罪被害から子どもたちを守る取り組みの推進
- ③ 子育てスポット「どんぐり広場」主催（月2回開催）

(5) 佐保台地区人権教育推進協議会

奈良市民としての人権教育の推進を県・市の推進協議会と協働して、啓発・教育に努めている。

- ① 市の推進協議会の各種委員会への出席
- ② 市主催の指導者講習会・講座・研修会等への参加及び当地区の講演会主催

(6) 佐保台万年青年クラブ連合会

地区の高齢者の親睦と健康の増進を図り、暮らしの向上に努めている。

- ① 佐保台地区の公園清掃・街路清掃
- ② 独居会員との食事会
- ③ 健康増進及び各種サークル活動、親睦会
- ④ 芸能発表会、作品展の開催

- (7) 佐保台グリーンサポートボランティアクラブ
奈良市のグリーンサポート制度、アダプトプログラム制度を利用して、佐保台地区の3つの街区公園の清掃・管理する3単位クラブの連合として活動。
これ以外に、地域の要請に応じた活動協力を行っている。
- (8) 奈良市立佐保台小学校育友会
① 学校行事の準備・運営
② ベルマーク、ボランティア活動のとりまとめ
③ 放課後子供教室、地域巡回指導を行っている。
- (9) 奈良市立認定左京こども園PTA
① 広報技術研修会出席
② ベルマーク運動・絵本整理・園庭整備・花苗植替・運動会・くれよん通信発行・お別れ会・学年末大掃除などの運営参加活動
③ 市P連総会、市P連幼稚園部会出席・地域他団体への参加活動協力を行っている。
- (10) 佐保台連合子供会
当地域の団体との協力により、地域の子供の健全な育成、より良い生活の向上を、ラジオ体操・クリスマス会を通じ活動している。
他、ふる里まちづくり実行委員会への活動協力を行っている。
- (11) 平城東中学校少年指導協議会
① 校区少年の非行化、各種事故防止のための街頭における非行少年の早期発見・指導活動、少年の相談啓発活動。有害図書などの排除の推進を行っている。
② 研修会、地域巡回を実施、広報誌（わかば）発行などの活動を行っている。
- (12) 平城東中学校区地域教育協議会
中学校区を単位とし、地域全体で子供を育てる体制を作り、教育活動の充実と、地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性を図ることを目的としている。
① 平城東中、佐保台小、朱雀小、左京小、朱雀こども園、左京こども園の地域決める学校予算事業・事業計画・予算などの作成
② 歴史ウォーク、平城高校生と遊ぼう、図書室開放実施等々の活動を行っている。

5.佐保台地域の現状と課題

■全国でみられる地域減少のヒトコマが佐保台地域にも

今やさほど目新しいことでもない地域の減衰による問題・課題が私たちの地域でも同様の状況にある。

背景には少子高齢化社会の到来、地域コミュニティの崩壊、地方行政の劣化、地球環境の変化による激甚災害など様々の要因が重なり合って、衰退化が多年にわたって進んできている。

こうした状況は、言うまでもなく、自然災害を除けば多年の積み重ねの結果であり、多くの地域でこうした衰退現象の中で自分たちの地域をどう支えていくのかが、今や大きな議論を呼んでおり、佐保台地域も例外ではない。

そこで私たちの佐保台地区の現状と課題について以下のステージで考えたい。

1. 人口・世帯数

今から7年前に一丁目に新たに住宅地が開発されたことで、人口・世帯数は微増傾向にあるが、年代別人口を見る限りでは、中長期的には少子高齢化傾向にある。こうした状況は後に述べるステージに少なからず影響を与え、地域力劣化の要因となる可能性がある。

	2008年	2013年	2018年	2019年	2020年 (11月現在)
世帯数	1,134	1,243	1,352	1,383	1,440
人口合計	2,851	2,871	3,034	3,063	3,161

佐保台地区人口推移



2. 環境

(1) 静かで緑が多いというだけでは、住民は暮らせない。

何よりもまずは安全・安心の環境維持が課題となる。

最近住民が全く知らない間に奈良坂の南面一体に太陽光発電の設置工事が行われていたり、ならやま大通りに面した斜面にも同様の工事が進んでいたりする。

過年、大阪北部地震の余波で、奈良市は震度 5 弱の揺れや、台風 21 号では今まで経験したことのない強い雨や風に見舞われ、一部地区では大規模な停電となり、災害が少ない奈良の意識を覆すほどであった。

こうした事態は全く予想できないことが多いが、今後はより一層キメの細かい災害対応が必要となる。

(2) こうした自然環境以外に大切なのは生活環境である。

住民の高齢化が進む中、公共交通においても、JR 平城山駅に至る跨線橋の段差、路面の凹凸、駅エレベーター未設置の施設の不備は如何ともし難い。

JR 大和路線でエレベーターの設置が無い駅を探すのが難しい中、乗降者数が少ないことを理由に何ら改善されない現状等々。

奈良交通のバスでも、運行便数が大幅に減便となり、さらには運行車両も未だにステップのあるバスで、高齢者の乗降には危険を伴う場面すらあるが、改善は遅々として進んでいない。

こうした状況は、日々の生活に置いての利便性を損なう大きな要因になっていることは確かである。

それと、置き去りに出来ないのは、近接するごみ焼却処理の清掃工場の存在である。移転を前提に市とは協定も締結されているものの全く進展を見ていない。24 時間、煙突からは白い煙が、我々の地区にも風向きで流れ込んでくる。市は水蒸気と説明するが、老朽化している焼却炉から、健康に有害な物質が拡散されていないのかなどの不安を抱きかかえている。

買い物に気軽に出られない、通院にもこと欠いている等、一般住民や高齢者、障がい者等の生活弱者にとって相当に厳しい環境となっている。

以上はあくまで一例であるが、こうした状況は、地域の住民が将来に亘り住み続けてもいいのかという、住居の基盤が揺るぎかねない大きな問題でもある。

(3) 交通アクセス以外にも、日常の生活に不可欠な商業施設が地域内にはコンビニエンスストア一軒のみで、徒歩 15 分圏内に存在しない状況も日々の暮らしを考えた場合、どう考えるかである。買い物難民なる言葉があるが、そんなレベルなのかを今の時期に考える必要がある。車を運転しているから、家人が車で連れて行ってくれる間はともかく、先の人口動静でも触れたことが必ず起きることである。

(4) 次に人にやさしい活力のあるまちづくりや、世代や年齢を超えたつながりを展開するうえで、地域内の絆についても、声なき声にも耳を傾ける必要もある。

「孤立しているのではなく、個立している」とまちづくりにかかわった人がよく口にする。時代の背景と共に、個人の価値観が多様化し、個々の営みを優先、コミュニティの基盤が確かに変容しつつあるのが今日の流れでもある。

そうした中、地域内では、子ども・高齢者への見守り、ネグレクトや認知症の人への対応など問題が表面化することも予測される中で、どのような発想に立つのかが問われているのが現実である。

地域内の諸活動の高齢化などの担い手不足が進む中、コミュニティの一員として、全く関心のない、ましてや単身世帯などが増えていく中で実情直視しなければ、担い手の確保自体厳しいともいえる。

3. 奈良市との関係性

新たな地域自治の取組は、最終的には地域と行政がイコールパートナーとして協働して公共を担おうとする考え方である。

しかし現在の行政の縦割り対応が、地域の問題・課題解決に向け、窓口が一本化されるには相当の期間を要するのも事実である。

地域は、住民は、全ての生存・生活機能を総括した基盤の上に生きている。行政の縦割りの考え方や対応では、必ず限界が生じる。

かつての「地域コミュニティワークショップ」の意見一覧を見ても、地域住民が日常感じている声に対し、行政側の反応・答弁は、あくまで縦割りを前提とした判断に基づくもので、人的配置、財政・予算、執行時期が中心で、各論の無い総論回答に終始している。

これでは行政の取組に行政サイドと地域の懸案に対する温度差が垣間見えて、住民のフラストレーションは如何ばかりかと窺えるものである。

従って、従来の要望型に併せて、具体的な施策に昇る提案型の方法も検討が必要となる。

地域との共同体制の基盤づくりが急がれることについては先に触れたが、旧来の公共サービスが限界に近づいたのであれば、それに代わる公共サービスについても、奈良市は市民に示すことも大切である。

こうしたことから、私たちは当面は未だ未だ行政主導、行政に請託する立場であることを念頭に置きつつ、今の地域の実態をとらえていく必要がある。

先走りが過ぎて、今の地域の自治システムですら限界に近い状態を瓦解させることは避けなければならない。

4. 今後の取組にあたって

一気呵成には進まない。

先にも触れたが、行政との二人三脚であり、行政の立ち位置の変化は従来から決して早いものではない。一本化の窓口、役割分担、補助金などを含め、現在は条例化に向けて、市議会議員との対話や、他地域活動の拠点確保等々についても進行中である。

すなわち、実体的には、地域の自治は今の自治連合会・自治会が担っていく局面は続く。自治協議会については、当面は自治連合会が先導の役目を果たすと同時に、各々の自治会も機運の醸成に努めて戴くことで、相乗効果も期待できる。

地域の力が劣化すると、課題が将来増大する傾向は、他都市で多く発生している。

ハード面においては、時間や費用面で対策には限界が生じるが、ソフト面においては、この地域の中に関係する諸団体が、知恵を出し合って、出来そうな手段を持ち寄って具体化していく発想が何より必要である。

担い手不足も地区の情勢に照らしても、今後も極端な増加は望めないなど、実情直視で対応せざるを得ない一面もある。

そして次に大切なことは、奈良市他地域の情勢の把握である。比較することが目的ではなく、ベンチマーキングする地域を把握。定点観測は自地域の計画の進捗管理にも有効である。場合によっては情報交換や交流することも可能となる。当面は行政主導型で進むことは間違いないので、市内の地域格差も生じる可能性もあり、地域が一体になり行政と向き合っていくことが今まで以上に必要になる。

6. 地域の将来像・基本方針

1. スローガン：「皆の手で 協働の自治 つなごう絆 地域の和」
 2. 具体的な目標
 - 健康・福祉…子供・高齢者の見守り、虐待防止、認知症への対応・居場所づくり（小学校・廃園施設・公園の有効利用）
 - 教育・文化…青少年子供育成・生涯サロン
 - 安全・防災・防犯…災害対応・治安・詐欺事案未然対応・交通安全・「向こう三軒両隣」
 - 地域振興・活性…地域行事運営・地域外アクセス整備・地域交流の場づくり
 - 環境整備…地域内景観保持・廃棄物対策・空家対応・交通利便性の改善（JR 平城山駅のバリアフリー化）
 - 地域の担い手育成…自治会役員、各種地縁団体活動等の担い手
 3. 自治会役員、各種地縁団体活動の後継者作り
 - 自治会役員の負担軽減
 - ➔新旧の役員分担を明確にして引継ぎを正確にする。会議時間の短縮を図る。
 - 自治会役員も楽しめるイメージづくり
 - ➔役員相互の親睦会の場作り
 - 団体活動の趣旨に合った知識、技能人の発掘
 - ➔メンター（経験豊富な方）。資格保持者等。
 - ボランティア人材の育成。
 - ➔メンターを中心にメンティ（団体に興味がある人材）を育成
- 目標① 防災・防犯意識の高揚「向こう三軒両隣り」の推進
- 全戸に配布掲出➔「向こう三軒両隣」各戸配布
 - 防犯パトロールの実施➔毎月17日 登校時、下校時、夜等
 - 防災避難訓練の実施➔11月
 - 路上迷惑駐車防止パトロールの実施➔毎月1日 PM8：00 より
 - 要支援者対応

目標② 高齢者と弱者にやさしい地域づくり

- バリアフリー化の推進→平城山駅にエレベーター、
エスカレーター設置を行政に要望
- 歩道面の凹凸解消→行政に要望
- 各单位自治会の要望を一括して要望→行政に要望
- 高齢者、弱者が気軽に参加(外出)出来る催しの開催
→夏まつり、とんど焼き、文化祭の開催等

目標③ イベント等、地域交流の場づくり

- とんど焼き (1月)
- 夏祭り (8月)
- 文化祭 (10月)
- 防災避難訓練 (11月)

目標④ 交通利便性の改善

(JR 平城山駅へのバリアフリー・奈良交通バスの増便)

- 積極的にバスやJR平城山駅の利便性向上。
- 行政や関連事業者との協議で、進捗状況を把握する。
- 平城山駅にエレベーター設置等の要望

目標⑤ 買い物難民の解消

- 行政や事業者との話し合いを行い、解消を図る。
- 買い物バス誘致を推進する。
- ケイタリングの紹介
- 巡回販売の案内 (曜日、時刻、ルート、取り扱い品目)